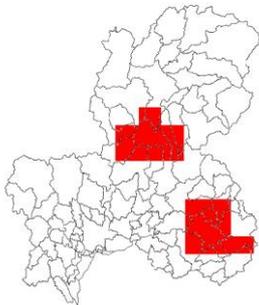


ミツバコンロンソウ		<i>Cardamine anemonoides</i> O.E.Schulz	絶滅危惧 I 類
			アブラナ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。		写真(高水正夫)
形態の特徴	茎は直立し、高さ10-20cmになる多年草。茎の下部の葉はごく小さく、上部の葉は有柄、3出葉で、小葉は卵状披針形。花期は4-5月。短い総状花序に数個のやや大きな白色の十字状花をつける。長角果は線形。		  
生態的特徴	山地の樹林下に生える。		
分布状況	日本固有の種。本州(関東以西)～九州に分布する。県内では県南の東部及び県北の南部の2地域で生育が確認された。		
減少要因	本種の分布域は県内の2地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)		

文責:佐藤和良